

【表題】 ホーカー・ビーチクラフト式 G58 型機の降下角増加のための
Prop HIGH RPM の効果について 【調査報告】

【著者】 本田 圭之利

【発表】 航空大学校研究報告 R-65

【時期】 2012年10月

【概要】

航空大学校仙台フライト課程（多発・計器課程）の航法における降下計画は、学生訓練実施要領 第6章計器飛行「ENROUTE 及び APPROACH における降下の計画」により、降下角 3° ~ 6° で作成することが求められている。

対気速度 140kts 及び 160kts それぞれの降下において、降下角 3° ~ 6° を設定しようとする場合、特に冬季は、出力を過度に低下させると CHT（シリンダー・ヘッド温度計）が常用範囲外となるため、すべての降下角を設定することが出来ない。

本研究は、CHT 常用範囲内において降下角をより増加させるため、出力の代替手段として通常使用しているプロペラ回転数 2300RPM を HIGH RPM (2700RPM) とした場合における降下角の変化を実フライトにより調査し、降下角のコントロールにおける Prop HIGH RPM の有用性を考察するものである。